

1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092000037		
法人名	医療法人 裕紫会		
事業所名	グループホームあがら花まる	ユニット名:	あがら
所在地	和歌山県御坊市藤田町藤井2118番地の6		
自己評価作成日	平成23年2月8日	評価結果市町村受理日	平成23年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokohyo-wakayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3092000037&amp;SCD=320">http://www.kaigokohyo-wakayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3092000037&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F
訪問調査日	平成23年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①入居者へのケアに関しては、入居者の「心の世界」を観ることを念頭におき、すべての言動には意味があるものと考え「なぜ？」という視点を持ち根拠のあるケアを心がけている。  
②地域との交流を大切し、馴染みの人や場所とのつながりを大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かな住宅地の中にある平屋造りの地域密着型複合施設の中にあるホームである。紀州材をふんだんに使い温もりのある雰囲気と採光に配慮された住環境である。本人の行動には全て理由があることを職員は十分認識し「行動指針」に基づいてケアを行っている。職員自身がそのケアの根拠を自覚し、次につなげてゆくよう日々話し合いの中で伝え合っている。地域との関わりを大切にすなかで、様々なボランティアの協力が得られており、地域へも出向いて交流をつみ重ねている。入居者の個々の生活スタイルを大切にしながら今までの生活と変わらないような支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当施設の理念として、住み慣れた地域と気心の知れた人たちのつながりの中で“あなたがあなたらしく”ある暮らしを一緒に目指して行きますとし、朝の朝礼時に理念と理念を実践するための行動指針を確認しケアに就くようにしている。また日頃から入居者の関わりの中で迷う事があればすぐに理念を振り返られるよう携帯サイズの理念及び行動指針を持ってケアに就くようにしている。	施設の理念とは別にグループホーム独自の理念を作りあげており、毎朝職員で黙読している。理念と行動指針に照らし合わせたケアが出来るよう全職員で日々取組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会や、ボランティアさんや地域活動等に積極的に参加し地元の方達との交流を図っている。また、近隣の小学校や幼稚園と、双方のイベントなどを通し、相互に行き来を図って交流も深めている。また回覧板を回していただいたり、地域の掃除に参加したりし地域に一員として受け入れられるように努めている。	職員が地域へ出向くことで地域住民に受け入れられ、交流が広がってきている。ピアノ演奏を聴きながらの茶話会やボランティアの協力で一緒に花を活けたりしており、小学生や幼稚園児の訪問も受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行政や地域包括支援センターの力を借り、地域の方々に介護や認知症の勉強会を開催している。また、近隣の小学校へは、総合学習の一環として行われた車椅子体験の協力を行ったり、認知症サポーター養成講座を開講し高齢者を地域で支える町作りを目指している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当事業所における活動内容や入居者との関わり、他、地域として取り組んでいきたい事や、地域で支える認知症高齢者への理解の普及や活動について意見交換を行っている。また感染症対策や非常災害時の応援体制も会議の場で検討している。	運営推進会議は、区長、民生委員、市担当者、包括支援センター職員、家族代表で二ヶ月毎に開催され、入居者もお茶を出す係として参加している。活動の報告や、感染症・災害についての学習が幅広くなされている。	会議に出席していない家族の意見も運営に活かせるよう、家族同士の連携を深めることにも期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設の透明性を図るためにも市への報告や相談を出来るだけ足を運んで行うようにしている。また、施設への苦情や相談については市と相談しながら対応するように努めている。	市への相談や報告は、頻繁に足を運んで行っている。市の活動のモデル地区となっており、認知症サポーター養成講座や啓発活動への参加の呼びかけが市よりなされる等協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等の理解を深める為、勉強会やマニュアルの作成をして周知活動に取り組んでいる。また、そういった外部研修があった際は、積極的に参加している。特に言葉の拘束の面は、日頃からミーティング等で話し合い防止に努めている。	職員は内外の研修に参加し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。家族には、契約時に身体拘束に対し説明をしているが、安全面に不安を持つ家族もあり、時間をかけながらきちんと説明し、理解を求めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の勉強会やマニュアルの作成をして周知活動に取り組んでいる。また、そういった外部研修があった際は、積極的に参加している。特に言葉の虐待の部分は、日頃からミーティング等で話し合い防止に努めている。		

【事業所】グループホームあがら花まる ユニット名:あがら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業などの重要性について、全職員周知できるよう研修会への参加を呼びかけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書と重要事項説明書にてご家族にご説明をし、納得をしていただいた上で契約を結んで頂いている。説明をさせていただく相手に合わせた話し方や言葉を使うようにしている。後に疑問点がでた場合はいつでもご連絡いただくように伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者に関しては、日々の会話の中で、意見や不満、苦情や思いを注意深く聞き取り、それらを職員間で共有し即座に解決できるように話し合っている。 ご家族に関しては、面会時や何らかの用事で電話連絡をした際に、要望や苦情、不満がないか聞き取るように心がけているとともに、直接言い難い内容などは、施設の玄関に設置している意見箱をご利用していただくようお願いしている。	家族に対してもきめ細やかな対応に努め、意見を伺うようにしている。また、年一回の家族アンケートを基に改善に努め「便り」に載せ報告している。玄関先に意見箱も設置しているが、口答で意見を聞くことが多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にグループホーム全体会議を開催し各職員からの意見の吸い上げを行ったり、個別に面談を行い運営に関する事や現場サイドとしての提案を聞く機会を設けて反映させたりしている。	2ユニット合同の意見交換会を月1回開き、その場で職員より業務改善や運営に関する意見が出されている。体調不良で休む場合のサポート体制等、会議で出された事が改善に繋がっている。	着替えや休憩に使用できる職員用の部屋がないことが意見として上がっているが、具体的な改善案は出されておらず、今後期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	夏季、冬季賞与は各職員に自己評価をさせ、また管理者が個々の考課表を作成し、賞与額に反映させるようにしている。全職員の勤務状況、仕事内容の把握に努めているが、全員に向上心を持って働けるようには至っていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内を掲示したり、個々に研修を受ける機会を設けている、また研修受講の希望があれば、勤務変更も検討している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症対応型サービス実践者研修やリーダー研修への参加を促進して他の事業所の職員との交流の機会を作ったり、他施設への見学や実習も促進している。		

【事業所】グループホームあがら花まる ユニット名:あがら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にセンター方式を活用し本人の不安に思っていることや困っていること、要望等を聴きとり職員間で共有しておくようにしています。またこまめに面接をし信頼していただけるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接や契約の際にご家族の希望や要望の聴き取りをするとともに、こまめに連絡を取り合い、信頼していただけるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際は、本人、家族のニーズを分析し施設側として可能な限り柔軟な対応をとり、ご本人とご家族に対して対応をとっている。また、関係機関とも連携し、いくつかの選択肢を提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、入居者のできる部分に着目し炊事洗濯掃除とうを職員と一緒に協働しともに生活を楽しむパートナーとして共同生活を楽しめるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	グループホームでの暮らしぶりを随時ご家族に報告し、ご家族の希望や思いを理解し、入居者を一番理解している家族と一緒に支える為の協力関係を築いている。行事ごと等への参加も啓発し入居者と家族が楽しく過ごせる機会を演出している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者のアセスメントシートから馴染みの友人や場所をピックアップし機会があれば出向いたりしている。行きつけの喫茶店や美容室へも行けるようにご家族にもご協力をいただいている。	入居時に、今までの馴染みの関係等をしっかりと聞き、途切れない関係を作り上げている。馴染みの美容院や喫茶店に出掛けたり食材も以前から行きつけた店に買いに行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話の中に冗談なども言いながら場を和まし、利用者同士会話ができるようさりげなく職員が間を取り持ち、よい関係性が築けるようにしている。共通の趣味や家事などを通じ自然と交流ができる様に努めている。		

【事業所】グループホームあがら花まる ユニット名:あがら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても困ったことがあればいつでもご相談して頂けるよう、日々の関係性を大切にしている。また、退所時には施設で生活していた写真をお渡しし、いつまでもよい思い出になっていただけるようにしている。また別のサービスを利用した際は担当者との連携を図るようにしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中での本人の思いをセンター方式に落とし込みご本人の希望や思いを共有し、できる限り希望に沿えるようカンファレンスなどを通してご本人の意向の把握に努めている。またご本人の意向に添えるよう随時ご家族と相談している。	センター方式を活用し、一人ひとりの思いや意向を職員間で共有している。本人の言葉の意味を考え、言葉の出ない人には表情を見て考え、職員同士の連携をとりあって本人に添ったケアを実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にはセンター方式で情報を整理しカンファレンスを行い、その人の状態や思いや希望に沿って支援できるよう職員間で情報の共有を図っている。入所後もご本人やご家族から集めた情報をファイリングし、各職員がいつでも見返せるようにし把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の状態等を日々記録し把握に努めている。また、記録に関しては24時間を通して状態を観察できるようなシートを使用している。また、有する力など現状の把握には、センター方式を活用しその人の総合的な把握に努めている。特に注意して観察しておきたい部分を赤枠で囲むなどし解決するまで見直しをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを開催し日頃から入居者、そのご家族との関わりの中で、ご本人の生活にあった支援ができるよう、カンファレンスを通じて検討しケアプランの作成に努めている。	家族からの聞き取りや、職員の毎日の申し送り、本人の思いを反映させた介護計画を作り上げている。毎朝ミニカンファレンスを開き、現状に即しているか確認し合っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的な見直しを行い本人に合ったプランの作成に努めている。本人さんの気づきは記入することができているが、支援内容、結果等が記録に残せていたことがある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族による外出・外泊支援や職員によるその時々々の要望に応じた支援、また併設の認知デイや小規模多機能ハウスとの交流もあり、柔軟な支援をしている。時折近所で行われている生きがいサロンへの参加も行っている。		

【事業所】グループホームあがら花まる ユニット名:あがら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一部の入居者の中で入居前に行っていた、デイケアサロンや習い事に参加する機会が作れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が馴染みのかかりつけ医に受診できるようご家族と協力しながら、適切な医療を受けられるよう支援している。また、受診の際は施設での様子を報告書や電話、FAX、又は職員が同行するなど主治医との連携を図っている。	入居時に希望するかかりつけ医を指定してもらい、受診は、家族が行っている。受診の際には日々の状態変化を報告書にまとめ家族に渡している。説明が難しい時や緊急時は職員が連れて行くこともある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム専従の看護師が入居者の日々の健康管理を行い、介護職員と連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医師との情報交換や地域医療連携室と連絡を取り合い、かかりつけ医とも退院に向けての相談をする中で、退院後も施設で安心して過ごせるように考慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族やかかりつけ医等と話し合う場を持ち、話したことを書面で残すようにしている。ご本人やご家族の意向を尊重し、終末期に向けてのあり方として、かかりつけ医、担当と連携を図りながら看取り指針をたてることとしている。	契約時、家族に説明し話し合っている。重度化した時は、看取り計画書を基に、家族と、医療連携している看護師や医師を交え、話し合いの機会を多く設けて方針を共有し、家族の不安を除きながらチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し職員が閲覧できる所に設置している。また内部研修で心肺蘇生法やAEDの操作方法についての勉強をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に3回消防訓練を行っている。その内1回は消防職員に来ていただき、評価を受けている。ご近所の方々とも話しをしご理解をいただき非常災害時の協力体制連絡網を施設内に掲示するとともに地区のハザードマップも設置している。	入居者も参加し、実際に消火器も使いながら消防訓練を年三回行っている。市の協力もあって、地域の方々との非常災害時の協力体制の連絡網も作りあげた。災害時の備蓄も確保している。	地域の非常災害時の協力体制の連絡網が出来たので、それを使って近隣の人々を交えての災害訓練を実施できることを期待する。

【事業所】グループホームあがら花まる ユニット名:あがら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を保ちながら誇りやプライバシーを損ねないように心がけている。プライバシーに関することは他者に話さないように職員に周知徹底をしている。自室へ入室する際は必ずノックをするなど当たり前のことはきちっとできるように努めている。	職員は常に携帯している「行動指針」に基づいて、一人ひとりの尊厳とプライバシーを損ねないよう気をつけている。職員間で気付いた点は注意し合いながら行動している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事メニューを決める際希望をききとったり、衣類を自分で選んでもらうなどの支援を行っています。「どうします。どちらにします。」という言葉を使いながら本人の思いを反映させたり、自己決定をしていただくように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴やお手洗いは、重なるとことがあり本人のペースに添えないことはありますが、その他はできる限り希望に沿えるように努めている。また、その人のペースに沿った支援をするように行動指針を下に取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	スキンケア、顔のお手入れ、行きつけの理美容店に通われている方や施設での理美容の希望があれば、その都度理美容店に連絡をし施設まで出張してもらうようにしています。また、衣類においても数ある中からご本人に選択してもらうように努めている。誕生日にはその人に似合いそうなスカーフや帽子をプレゼントしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立はできる限り入居者の希望を聞きながら決め、調理は利用者個々の力を活かし利用者と一緒に作り、食後の片付けも職員と一緒にを行っています。	献立作りから食材の買い出し、盛り付け、片付け等、個々の能力に合わせ行っている。職員も一緒になって食事を楽しんでいる。箸や茶碗、湯飲み等は、なじみの物を使い、和やかに食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	おやつなど季節の物をお出ししたり、飲み物も多種多様な物をご用意しています。喉が渇いたときにいつでも飲めるようカウンターにお茶を置いている。病状に応じて飲み物も工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各個人の能力に応じ、朝・昼・夕の口腔ケアの見守り、声かけ及び介助を行っている。		

【事業所】グループホームあがら花まる ユニット名:あがら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、こちらからさりげなくトイレへの誘導を心がけ声かけています。パットの使用もご本人の自尊心を傷つけないようにさりげなく手渡しし、排泄後の身だしなみも職員がそっと手直しするなどの支援を心がけています。オムツの使用に関しては、極力無くし、日中に至っては全員が綿のパンツを使用している。	「オムツゼロ作戦」を掲げ、定期の交換、清潔に心掛けている。職員が記録しやすい記入方法に改善し、皆が排泄パターンを把握し、声かけにも気をつけ、併せて水分摂取にも気を配っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ下剤の服用をしないように、起床時に牛乳や冷水を飲用して頂いたり、便秘が続いている場合は腹部マッサージを行なうなど自然排便ができるように支援している。それでも便秘が続く場合は、下剤の服用や看護師に浣腸や坐薬での対応を取っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	特に曜日を決めての入浴ではなく、ご本人の希望があれば入浴していただいたり、状態に応じた時間帯に入浴していただくようにしています。また男性の方でスカッとしたと言われる方がおられトニックシャンプーを使用していただいている。	バスタオル、シャンプー、ボディソープは、それぞれ自分の物を使用し、自由な時間帯に入浴出来る支援をしている。嫌がる人には声かけやタイミングを工夫したり、足浴、手浴をし、個々に添った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	布団や枕は、今まで使い慣れた物を自宅より持ってきて頂き使用している。居室の温度、湿度に気を配り、夜間も寝苦しくないようにエアコンで調整しています。夜間寝つきが悪い時などは、適宜足浴や温かい飲み物をお出しするなどし、落ち着いた環境を整えている。日中もその時々に応じて自室にて休んでいただいたり自室で寝るのが寂しいと言われる方が居れば居間の畳にて寝ていただくこともあります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬前、個別の用法、用量を確認した後服薬支援をするようにしている。間違いがないよう何度も確認作業と服薬後の確認をリーダーが行うようにしている。薬の作用・副作用については各入居者別に内服薬一覧表を作成し、職員間でいつでも共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	四季折々にイベントを企画し、入居者に張り合いを持っていただけるようにしている。また、生活歴を活かし、料理の手伝いや裁縫等それぞれにあった役割をもてるように努めている。外出支援として、喫茶店に行ったり、適宜買い物や近隣の海や山へ季節を感じられるようドライブに出かけたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、近隣の喫茶店やドライブに出かけたり、近くを散歩したりしている。入居者のお一人は、昔からの日課となっている散歩を現在も続けておられ、一日2回程度出かけられている。	散歩や買い物に、ほぼ毎日のように出掛けられている。車椅子使用の人も外気に触れるよう努めて声掛けをして散歩に出ている。また、小学校の運動会の見学や花見、七夕に神社に行くなど、様々な外出支援がなされている。	



【事業所】グループホームあがら花まる ユニット名:あがら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己にてお金を管理されている入居者は2人おられ、その方々は購入の品物に対しての代金の支払は職員が付き添い行なっています。他の入居者に対しても、必要な物の買出しに対しては職員が同行し近隣の商店で買いたい物を購入できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望があれば、状況に応じ電話を貸し出ししている。また、ご家族からも定期的な電話もありご家族とのやり取りができています。手紙や年賀状が届くこともあり一緒に読むようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓にはカーテン、ブラインドを設置し日の光が入りすぎないようにしている。浴室、トイレには入居者が作った暖簾を取り付け、場所がわかるようにしている。	太い梁がむき出しの高い天井と明るい採光の居間兼食堂には、TVの音も邪魔にならず、各々愛用のクッションをイスに置き、くつろいでいる。畳の間もあるが活用されている様には見えない。	居間兼食堂の一角には高い段差のある畳敷きの場所があるが、活用されていないようである。人の声を聞きながらゆっくりとくつろげる場となるよう工夫されたい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の一角に畳のスペースを設けている。共用空間には独りになれる場所はないが、仲の良い方同士で過ごせるように居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が自宅で使っていた物を入所時に持って来ていただき、馴染みの物(写真、タンス、テレビ、冷蔵庫、仕事道具など)を身近に置くことで、不安なく過ごせるように工夫している。	部屋の入り口には、お気に入りの花輪や表札が掲げられている。自宅で長い間使用していた愛用のタンスなどが置かれたり、散歩の途中で自宅に立ち寄り品物を持参してくる等、居心地良く過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	適当な場所への手すりの設置や段差がないようバリアフリーにし、転倒への予防をしている。また、居室への出入り口、浴室、トイレ、ユニットの出入りのドアは引き戸にし、安全に出入り出来るよう配慮している。		